

特集

平成

紀南スポーツ名場面

～ 紙面で振り返る ～

平成の30年間、県内ではスポーツでもさまざまな名場面があった。その一部を、紀伊民報の紙面から振り返る。

保富 一成、安井 夕記

親子で甲子園出場

南部 2001(平成13)年3月27日付

春の高校野球



井戸紀彰さん

2001年3月25日、兵た。

紀彰さん(35)は現在、庫内西宮市の阪神甲子園球場で開幕した第73回選抜高校野球大会に南部が所属し、開会式では南部の井戸紀彰主将が選手宣誓し、父の志を継いで監督としてチームを率いた。26日の初戦でこの大会で優勝した常総学院(茨城県)と対戦し、7-8で惜敗した。親子での甲子園出場も話題になった。

監督だった志志さんについては「自分が一番最初に怒られた。親子だからこそ厳しさを、自分もチームのみんなも理解していたと振り返る。常総学院との試合では、序盤に南部らしいたたみかける攻撃で3回表まで7-0でリードしたが、相手投手が交代した後は追加点を奪えず、試合をひっくり返された。それでも優勝チームをあと一歩まで追い詰めた。『みなべ』の名を全国に響かせた。紀彰さんは「面白い試合だったので、少年野球の時から大舞台で誰かが話に感謝の気持ちも込められている。」



夏に向け挑戦始まる

南部惜敗 1点に泣く

高校ラグビー

34年ぶり花園出場

熊野 1997(平成9)年11月25日付



廣畑憲さん

熊野34年ぶり3回目の栄冠



第77回全国高校ラグビー大会決勝

県内の田畑耕地面積

1997年11月23日、和歌山市であった第77回全国高校ラグビー大会の決勝で、熊野が和歌山工業を55-23で破って優勝。34年ぶりの3回目の花園出場を決めた。当時、熊野の2年生で、センター(CTB)として出場した廣畑憲さん(38)はこの年、熊野は新人戦で和歌山工業に勝って、『この大会でも優勝できる』という雰囲気があった」と語る。決勝は前半にリードを許して折り返した。メンバーの間で「負けるのではないか」という不安がよぎったが「前半は風下でこれだけ耐えたんだから、風上のは後半はほとんど攻めろ」という清水晃行監督の言葉でムードは一変した。後半はチームの持ち味であるスピードを生かした猛攻で逆転し、花園出場をつかみ取った。「34年ぶりだが、自分たちにとっては初出場なので大喜びだった。」

た。花園では1回戦で国学院栃木(栃木県)に12-60で敗れた。「負けた気さえないまま終わってしまった」という。廣畑さんは大学でもラグビーを続け、地元で就職。現在はボランティアで地元のラグビースクールの子供たちを指導している。「子どもたちにも優勝の喜びを経験してほしいし、自分たちを超えて日本を代表する選手になってくれればうれしい」と、未来のラグビーマンの育成に携わっている。

体操

和歌山国体で日本一

成年男子 2015(平成27)年9月15日付



柴田快輝さん

2015年、県内で44年ぶりの開催となる「紀の国わかやま国体」があった。体操競技は同年9月に和歌山市であり、県チームは成年男子がそろって優勝した。当時、成年男子チームのメンバーだった田辺工業高校出身の柴田快輝さん(26)は田辺

市役所は「地元開催で盛り上がり、とても気持ちがよい大会だった」と語る。柴田さんは明洋中学校、田辺工業高校で体操の技を磨き、順天堂大学3年の時には21歳以下の日本代表に選ばれ、その年の国際大会で主将として団体優勝に貢献した。大学卒業後は実業団からの誘いもあったが、県内開催の国体に向けて地元での就職を選んだ。国体の成年男子メンバーには「田中3きょうだい」として知られる田中和仁さん、弟の



成年男子が日本一

田辺勢勝利に貢献

少年男子人賞果たす



夏の高校野球

創立100年初の甲子園

田辺 1995(平成7)年8月1日付



講初修也さん

この年の和歌山大会で田辺はノーシードから勝ち進み、3回戦で南部に2-0、準々決勝で和歌山工業に2-0、準決勝で伊都に4-3で競り勝ち、決勝では高野山に大勝した。講初修也さんは「南部に勝つてからチームの中に『もしかしら』という空気が流れ始め、その後は自分たちのしたい野球ができた」と振り返る。

田辺高校 創立百周年 歴史に新たな1ページ

ひとときわ輝く初出場



全国高校野球 和歌山大会優勝

甲子園では1回戦で初出場の垂山(静岡県)に2-12の大差で敗れた。甲子園の雰囲気にもまれ、あつという間に時間が過ぎた」という。当時のメンバーとは現在も交流が続く。2018年には、95年の甲子園出場メンバーを中心とした田辺OBチームが「マスターズ甲子園」の県大会に出場、惜しくも二度目の甲子園出場は逃したが、OB同士の世代を超えた交流を楽しんだ。